

平成 15 年度 設備投資計画

総額 167 億 2,000 万円

- SF カードシステムの利用範囲拡大と駅集中管理システムの導入 -
- 中部国際空港へのアクセス拠点・金山駅などの改良工事 -

名古屋鉄道は、鉄道の基盤整備の強化を骨子とした、平成 15 年度の設備投資計画をまとめた。

平成 15 年度の投資総額は 167 億 2,000 万円で、昨年度に比べ 24 億 2,000 万円減少している。

これは、平成 14 年度には上飯田連絡線の開業に向けて、小牧線の近代化と輸送力増強を図るため、相互直通運転専用車両 300 系を新造したことや、駅集中管理システムおよびストアードフェアカードシステム(以下、SF カードシステム)の導入に伴う設備投資があったことによるもの。

平成 15 年度は、地域の公共交通としての使命を果たすべく、鉄道事業に 121 億 7,000 万円を投じ、小牧線で導入した SF カードシステムの利用範囲拡大と、駅集中管理システムの整備を図るほか、引き続き中部国際空港開港へ向けての鉄道基盤の整備と強化、旅客安全対策と旅客サービスの向上を進める。

小牧線に続き、15 年度の SF カードシステム利用範囲は、地下鉄と相互直通運転を実施している犬山線・豊田線をはじめ、三河線と名古屋本線の一部線区を予定している。これに伴い、SF カードシステム導入予定線区に駅集中管理システムを整備するほか、駅務機器などの改良・更新を実施する。

また中部国際空港開港へ向けては、中部国際空港へのアクセス拠点となる金山駅と新名古屋駅の改良工事を実施するほか、引き続き唯一のアクセス鉄道路線となる常滑線や、空港開港時の輸送力増強に備えて新川検車場の改良などを実施する。

このほか旅客安全対策では昨年に引き続き、ホーム転落事故防止対策として、旅客がホーム下に転落した際、列車に対し非常停止灯を表示す

る列車非常通報装置を 8 駅に設置するほか、車両連結部への転落防止を図るため、車両の車両固定連結部の車体側面に、車両転落防止幌を 12 編成 38 両に設置する。

また、旅客サービス向上では、バリアフリー対策として車いす用階段昇降機(チェアメイト)を新たに6駅に配備するほか、鉄道の利用促進策の一環として、小牧線・瀬戸線沿線で駐車場を整備するなどパーク&ライドを積極的に進める。

自動車部門では、自動車改正 NOx・PM 法に基づき、昨年度から 5 年間で約 400 両の車両更新を予定しており、今年度も 91 両を更新する。

平成 15 年度 事業別の主な設備投資の内容は次のとおり。

投資額の対前年比較(単位:万円、消費税込み)

事業	平成 15 年度	平成 14 年度	差異
鉄道事業	121 億 7,000	148 億 5,000	26 億 8,000
自動車事業	21 億	16 億	5 億
不動産事業	18 億 4,000	18 億 5,000	1,000
その他事業	2 億 1,000	1 億 6,000	5,000
その他	4 億	6 億 8,000	2 億 8,000
総額	167 億 2,000	191 億 4,000	24 億 2,000

鉄道事業 [121 億 7,000 万円]

1 SF カードシステムの利用範囲拡大と駅集中管理システムの整備 < 41 億 5,000 万円 >

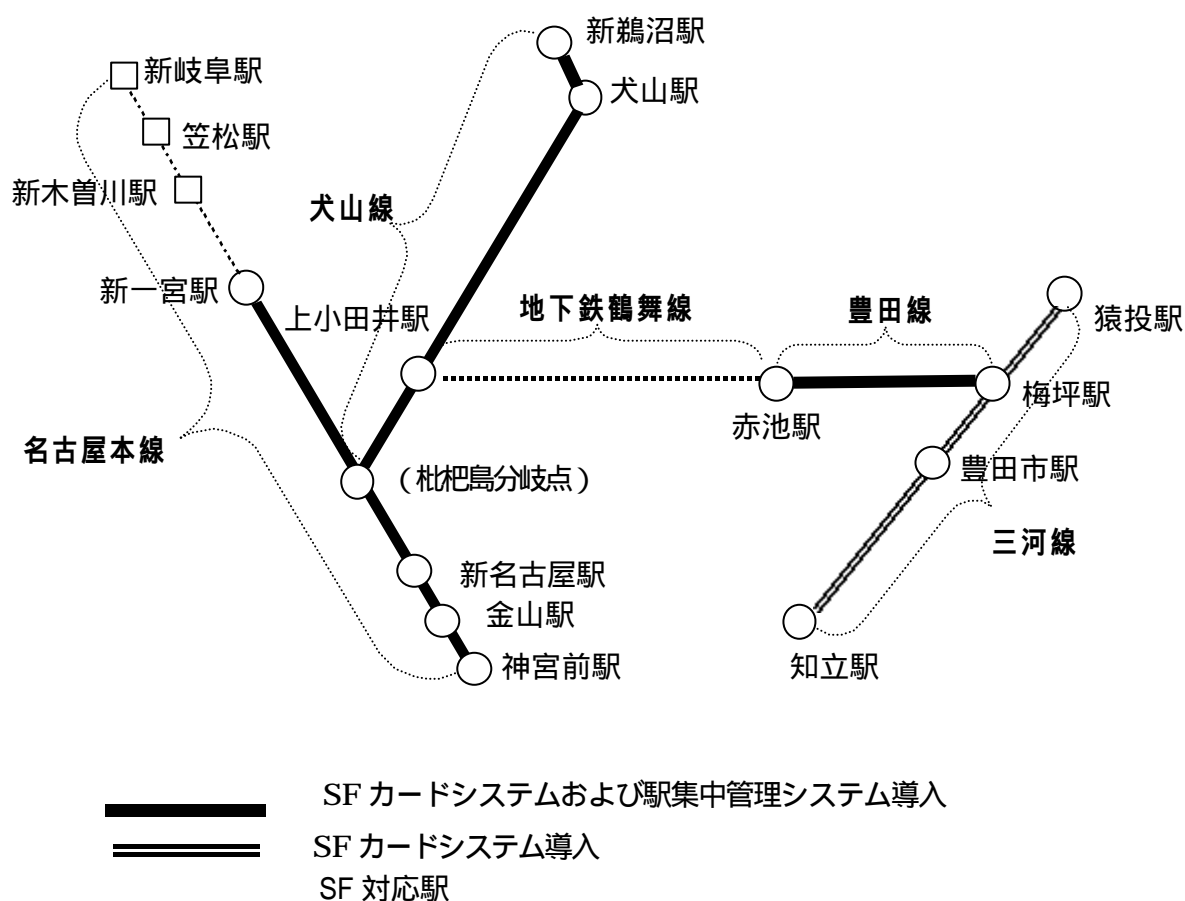
平成 14 年度は上飯田連絡線開業にあわせて、小牧線に SF カードシステムを当社で初めて導入したが、平成 15 年度は地下鉄と相互直通運転を実施している犬山線・豊田線をはじめ、三河線 知立～猿投駅間、名古屋本線 神宮前～新一宮駅間を SF カードシステム対応線区とするほか、

名古屋本線の新木曾川駅、笠松駅、新岐阜駅を同システム対応駅とする。

また、SF カードシステムの範囲拡大に伴い、同システム導入予定線区に駅集中管理システムを整備する(なお、三河線 知立～猿投駅間は平成 14 年度に導入済み)。

SF カードシステム導入に伴う自動券売機や自動改札機などの駅務機器改造および駅集中管理システムの導入をあわせ、投資額は 41 億 5,000 万円。

【15 年度の SF カードシステムおよび 駅集中管理システム導入計画(路線図)】



< 参考 >

SF カードシステムは、SF カードを直接自動改札機に投入し、運賃を自動的に引き

落とすシステムのこと、1枚のカードで当社線・当社バス・名古屋市交通局の地下鉄線・バス線を利用することができ、旅客の便宜を図るもの。

また、駅集中管理システムは、駅員無配置駅や駅係員が終日対応ではない特殊勤務駅に自動券売機・自動改札機・自動精算機・乗車券確認カメラ・インターホン、放送設備等を設置し、管理駅でこれら機器を遠隔監視、操作することにより、省力化および駅員配置駅と同様のサービス提供を図るもの。

2 中部国際空港開港に伴う改良工事 <40億3,000万円>

中部国際空港へのアクセス拠点となる金山駅および新名古屋駅において、乗継利便性向上のため、駅舎の一部改良工事を実施する。JR在来線や地下鉄線等との乗り継ぎ駅となる金山駅では、既存の店舗棟(西棟)を改装して新たにJR線と当社線の乗り継ぎ改札口を設置する計画であるが、その先行工事として駅舎棟(東棟)を東側に増築し、店舗の移設スペースを確保するとともに、同駅東側にかかる「高座橋」からの連絡通路と改札口を新設する。駅舎棟の増築部分の工事費は約24億円で、竣工は平成16年3月の予定。

また、新幹線やJR在来線、地下鉄線等の乗り継ぎ駅となる、新名古屋駅においても、金山駅同様、中部運輸局主催の「中部国際空港アクセス利便性向上対策協議会」で検討を進めており、それに対応するため、15年度は設計費などに約3,000万円を投じる。整備の方向は、JR名古屋駅広小路口との移動距離を短縮するため、団体専用入口付近に改札口を新設し、1階と新設改札口間およびコンコースと上り、中、下りホーム間に車いす対応エレベーターを各1基ずつ計4基整備するほか、中央コンコースに多機能トイレを設置する。総工費は約15億円を見込んでおり、竣工は平成16年12月の予定。

このほか、中部国際空港の鉄道アクセス路線となる常滑線については、高速運転の実現を目指して、平成2年から積極的に改良工事に取り組んでいるが、車体傾斜制御装置を装備した空港アクセス専用車両に対応するため、軌道改良工事や、き電線の張替工事のほか、変電所の増強工事など、今年度も引き続き、中部国際空港開港に向けた輸送力増強とスピードアップを図る。また、開港後の鉄道輸送拠点とするため、引き続き新川検車場の改良工事を実施し、留置車両数の増強を図る。竣工は平成17年度の予定。

3 旅客安全対策など < 1 億 3,000 万円 >

列車非常通報装置の設置

ホームで異常が発生した場合、駅係員や旅客が駅構内に設置したボタンを押し、列車非常停止灯を作動させ、列車の乗務員に駅構内の異常を知らせる列車非常通報装置を、昨年度の 12 駅に続き、今年度は 8 駅を対象に設置する。

【平成 15 年度 列車非常通報装置設置駅】

名古屋本線...美合駅 / ナゴヤ球場前駅 / 栄生駅 / 新清洲駅 / 笠松駅 / 新木曾川駅

犬山線...布袋駅 / 徳重駅

車両転落防止幌の設置

ホームから車両連結部への転落防止を図るため、車両固定連結部の車体側面に、車両転落防止幌を 12 編成 38 両に設置する。

転落検知装置の設置

曲線ホームにおける電車とホームの隙間への転落後の事故防止対策として、瀬戸線 大森・金城学院前駅に、転落検知装置を設置する。転落検知装置は、乗車時に列車とホームの隙間から転落した場合、ブザーの鳴動および危急知らせ灯の点滅により、列車の乗務員に危険を知らせるもの。現在は、竹鼻線 柳津駅と三河線 平戸橋駅の 2 駅に設置している。

4 駅施設の整備・改良など < 6 億 5,000 万円 >

駅務機器の新設・更新

JR 東海と共同使用している豊橋駅、鵜沼駅、蒲郡駅と名古屋市交通局と共同使用している赤池駅の自動改札機をはじめ、名古屋市交通局全駅の精算機を改造し、磁気記録方式の高度化を図る。

また、南成岩駅と前後駅で計 4 台の自動改札機を新增設するほか、駅

集中管理システムの円滑な運営のため、乗務員が携帯する車内券発行機を更新し、乗車券の磁気化率向上を図る。

バリアフリー化とパーク&ライドなど

バリアフリー対策として、甚目寺駅上りホームにスロープを設置するほか、現在金山駅などの 2 駅に配備している車いす用階段昇降機(チェアメイト)を新たに新岐阜駅や犬山駅などの主要駅 6 駅に配備する。

また、鉄道の利用促進策の一環として、平成 15 年度は平面駐車場として小牧線 味鋺駅で 57 台分の駐車スペースを、瀬戸線 尾張瀬戸駅で 13 台分増設して 22 台分の駐車スペースを確保し、パーク&ライドの推進に積極的に取り組む。

駅施設の新設・改良など

雨よけや日よけなどのため、新瀬戸駅、南加木屋駅、新木曾川駅、甚目寺駅などでホーム上屋の増改築を実施するほか、新名古屋駅のプラズマディスプレイの更新や、常滑線 名和駅の待合室を新設するなど、駅施設の充実を図る。また、広見線 犬山～新可児駅間に列車無線地上局を設置し、列車無線の増強を図る。

5 車両の改良など < 3 億 >

降雪時の保安度向上を図るため、16 編成 27 両に耐雪ブレーキ装置を設置する。

6 土木施設の改良など < 7 億 9,000 万円 >

軌道強化・改良など

乗り心地の向上を図るため、名古屋本線 富士松～知立駅間(450m)と堀田～桜駅間(700m)および常滑線 名和～聚楽園駅間(900m)をロングレール化するほか、河和線 富貴～布土駅間(350m)および犬山遊園駅

構内などで、耐久性に優れたコンクリート製の PC マクラギへの交換を実施する。

耐震補強など関連工事

耐震補強のため、名古屋本線 神宮前～堀田駅間など 6 カ所で、構造物の補強、改良工事を実施する。

7 電気施設の改良など <17 億 2,000 万円 >

安定的な電気供給を図るため、瀬戸線 小幡～大森・金城学院前駅間、尾西線 二子～観音寺駅間および日比野変電所の 3 カ所で、き電線の増強を実施するほか、河和線 知多武豊駅付近を中心に、鉄柱の建替えなど増強を図る。

また、駅構内の列車の安全を確保する継電連動装置の更新を実施するなど、電路・変電施設等の新設や更新を実施する。

8 踏切保安設備の新設改良 <4 億円 >

踏切事故防止策の一環として、3 種踏切 6 カ所を 1 種踏切へ格上げするほか、139 台の踏切遮断装置を更新する。

また、踏切内で何らかの障害物を検知すると、自動的に発光信号機を作動させて列車運転士に危険を知らせる障害物検知装置の新設・更新を 13 カ所、踏切支障報知装置を新たに 24 カ所に設置するなど、踏切保安度の向上を図る。

9 立体化 <継続工事 >

安全対策の推進と都市計画事業の一環として、4 路線 5 カ所で立体化工事を継続する。

名古屋本線鳴海駅付近(本星崎～左京山) 2.1km の立体化
竣工予定 / 平成 19 年度

小牧線間内駅付近(間内~小牧口) 0.7km の立体化

竣工予定 / 平成 16 年度

竹鼻線羽島市役所前駅付近(羽島市役所前~江吉良) 0.9km の立体化

竣工予定 / 平成 16 年度

常滑線大同町駅付近(大江~名和) 1.6km の立体化

竣工予定 / 平成 17 年度

常滑線 榎戸~常滑間 1.6km の立体化

竣工予定 / 平成 16 年度

自動車事業 [21 億円]

1. バス車両の新造と改装 < 19 億 1,000 万円 >

昨年度公布された自動車改正 NOx・PM 法により、大型車の猶予期間が 12 年間に定められたことに伴い、平成 14 年度から 5 年間で約 400 両の車両の更新を実施する計画であるが、平成 15 年度は、排出基準に満たない使用年数 13~17 年の高年式車両を一部前倒しして更新し、大型車 40 両、中型車 18 両、小型車 2 両、空港車 6 両、貸切車 13 両、高速車 12 両の計 91 両を新造する(昨年度実績は、計 75 両)。

このほか、輸送サービス向上の一環として、大型デラックス車 14 両と一般大型車 31 両を対象に、全塗装やシート張り替え、カーテンの交換等の改装を実施する。

2. その他 < 1 億 9,000 万円 >

バスダイヤ作成システムを更新するほか、車両運用の効率化と非常時対応を図るため、豊田自動車営業所、知立自動車営業所にバス無線を導入する。

不動産事業 [18 億 4,000 万円]

昨年度に引き続き、名鉄バスターミナルビルのエレベーターや変電設備の更新など、当社所有ビルの改修工事を実施するほか、牛島市街地再開発組合が主体となる名古屋市西区(一部中村区)牛島町地区の再開発について、当該組合事業計画に参画する当社は、負担金として、平成15年度は3億5,000万円を投じる。

このほか、西区則武新町に賃貸建物を建設する。

その他事業 [2 億 1,000 万円]

明治村、リトルワールド、日本モンキーパークなどにおいて、施設の充実を図るとともに、スイミングスクール、テニス知立などの施設整備や機器の更新などを実施する。

その他 [4 億]

今後新規に導入するSFカードシステムや駅集中管理システムに対応できるネットワーク容量にするため、LAN機器を更新し、パノラマスーパーネットの更新・構築を実施するとともに、各部署の業務別システムの構築や、職場環境の改善、情報システムの更新を積極的に進める。

(以上)